「第28回日本医療マネジメント学会学術総会」にて優秀演題賞を受賞して

～当院のチーム力が生んだ確かな成果～

内科部長　**長屋 龍太郎**

2026年５月に開催された「第28回日本医療マネジメント学会学術総会」に参加いたしました。私が「地域包括ケア病棟38床の機能強化による稼働率・在宅復帰率改善に向けた実践的取り組み」という演題で発表を行い、大変光栄なことに優秀演題賞を受賞いたしました。

今回発表した内容は、2024年８月の地域包括ケア病棟開設以降、日々「どうしたら患者様にとって最適な在宅復帰を実現できるか」を目標に、医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・リハビリテーションスタッフ・事務職員・歯科衛生士・看護助手・ナースアシスタント・栄養士・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・介護事業所スタッフなど、多職種が連携して取り組んできた成果をまとめたものです。その結果、ほぼ100%の病床稼働率、平均85%を超える在宅復帰率を達成することができました。今回の受賞は、発表者である私個人ではなく、日々患者様と向き合い、より良い病院づくりに取り組んできた職員一人ひとりの努力が評価されたものと感じており、大変嬉しく思っております。

医療を取り巻く環境が大きく変化する中、これまで当院が地域の中で築いてきた歴史や信頼を大切に受け継ぎながら、新しい時代に求められる病院へと進化していくことが、これからの私たちの役割だと考えています。今回の受賞を一つの励みとして、「地域に必要とされ続ける病院」を目指し、職員一同新たな挑戦を重ねてまいります。

新棟スタート3年目　新しいChallenge紹介

緑内障を理解する
～早期発見の大切さと最新治療～

海谷眼科 副院長　**山本 哲也**先生（医学博士）

～山本哲也先生よりお手紙が届きました～

長屋病院様

皆様、こんにちは。このたび長屋病院様のお招きで今年5月30日に緑内障に関する公開講座を担当させていただきました。御礼申し上げます。長屋病院様には眼科外来がございませんので、目の病気の話をするなど出しゃばりのように感じていました。ただ、緑内障は60歳以上の方では10人にひとりくらいが罹患する頻度の高い病気ですので、一般の方を含めて有意義だろうと思い、講演をさせていただきました。予想にたがわず、聴講された皆様は熱意に溢れており、私も気持ちよく話をさせていただきました。講演の折にも話しましたように、緑内障は元には戻せないものの早期に治療を始めればそんなに怖い病気ではありません。重症の方でも、近年は薬物、手術が発達し、厳しい状態になる方は少なくなっています。主治医の先生の指示に従ってきちんと治療を受けていただくことが大切だと思います。これは内科や外科の病気でも同じですね。

私が緑内障を専門としてから40年以上が経過しましたが、まだまだ未解決の事柄が多くあります。でも、治療は進歩しています。緑内障があってもきちんと治療すればそんなに困らないという時代が近づいています。これからもご一緒に緑内障に限らず体の疾患を克服して、健康に過ごしていきましょう。

患者様のご快癒並びに長屋病院様のますますのご発展を祈念しております。

５月30日長屋病院にて「みんなが知りたいシリーズ」第６回特別講座「緑内障を理解する」が開催されました。

講師には、海谷眼科副院長の山本哲也先生をお迎えし、緑内障の特徴や症状、検査、治療、そして早期発見の大切さについて、わかりやすくお話いただきました。当日は地域の皆様や患者様など100名を超える皆さまが参加され、熱心に講演に耳を傾けました。

「第12回 地域包括ケア推進病棟研究大会」に参加して

地域連携室　室長　**安達　薫**

2026年７月11日に「第12回　地域包括ケア推進病棟研究大会」が開催され、当院職員が参加いたしました。今回目的の１つ目は、全国から集まる最新の知識や工夫を学び、長屋病院の病棟をもっと快適で質の高いものにレベルアップさせること。２つ目は、当院の日頃の取り組みを全国へ発信することで、地域のケアマネジャーさんや他の病院との連携をさらに強め、皆さまがより安心して暮らせる環境をつくることです。

発表では、病棟の安定的な運営体制から、現場における多職種・当事者間での支援、そしてレスパイト入院が浮き彫りにした社会的課題にいたるまで、多角的な視点から当院の取り組みを伝える貴重な機会となりました。全国から集まった医療関係者からも多くの関心が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

地域包括ケア病棟が掲げるスローガン「ときどき入院、ほぼ在宅」の理念を実現するためには、院内における多職種連携はもちろんのこと、地域の様々な医療・介護機関と深く連携し、互いに支え合う在り方が不可欠です。その向かう先にあるのは、誰もが「住み慣れた地域でその人らしい暮らし」を最期まで続けられる社会です。長屋病院での入院を通し、患者様やご家族様が望む暮らしの実現に少しでも近づけるよう、これからも全職員一丸となって質の高い医療・ケアの提供と地域連携の強化に努めてまいります。

ワーキンググループ

社会医療法人栄公会 佐野記念病院を見学

リハビリテーション部　課長　**熊﨑　真仁**

佐野記念病院の皆さんとともに

2026年７月３日に大阪府泉佐野市にある佐野記念病院を見学し、リハビリ部門における業務の進め方や多職種間の連携、効率的なリハビリ体制など学んできました。今回の見学では、単位数管理をどのように行っているか、限られた人員や時間の中で必要なリハビリを提供するために、医師、看護師、看護助手、MSWそしてリハビリスタッフが役割を明確にしながら業務を進めている点が印象的でした。

また、カンファレンスや患者情報の共有方法など、日々の業務を効率化するための工夫についても参考にすることができました。

今回見学させていただき、当院の病棟機能やスタッフ構成を考慮して、現在抱えている課題にどう取り組むかが重要であると思いました。特に、リハビリ時間の確保、スケジュール管理、情報共有、多職種の連携、カンファレンスの効率化などについては、今後の業務改善につなげていきたいと考えています。

今後もスタッフ一人一人が効率を意識するとともに、チーム全体での協力できる体制、多職種との協働を整え、よりよいリハビリテーションを提供できるよう努めてまいります。

院内報告会

それぞれの発表内容を院内でわかちあいました

長屋龍太郎先生が新病棟運営について講演されました。
演題「地域包括ケア病棟における病棟稼働率95％以上維持するための実践的な取り組みについて」

地域包括ケア推進病棟研究大会に参加してきました。私たちの看護を振り返り、他病院の良いところを参考にこれからも進化していきたいと思っています。

病棟看護師　山本　恵里佳

未来をつくる若い力

龍太郎先生を中心に職員代表として参加したメンバー一同。カラフルズ（多職種連携）でエネルギッシュ！

全職員が会議室集合! 熱心にメモを取りました。
私たちができることをチャレンジします！